

## 市民と市長との対話集会会議録【要旨】

※生成 AI による要約を行なっています。

令和7年4月21日 市民立小中一貫校 花咲学園

(代表者)あいさつ

オルタナティブスクールがどういうものなのかを紹介したい。子どもたちの多様な学びを保障。

火曜日から金曜日の週4回、10時から15時で開設。12人が在籍し、市内7人市外5人。公民館、区民会館を借りて活動してきた。苗木に拠点を作り、5月に引っ越す。お昼ご飯作り、スーパー買い出しから作って食べて片付けまで。午後は自由な時間、木曜日はお弁当デー。公園、体育館、科学館などで体験する。

(市長)あいさつ

今日はこのような機会をいただき、ありがとうございました。就任から1年3カ月、市長になるにあたり、市民との対話をしたいと、昨年4月からこのような対話集会を始めて、今日で34回目。広い市域、いろんなジャンルの皆さんと話す。PTA、学童の運営者、保護者、発達支援、不登校の保護者さん、子ども関係での対話集会が多い。

対話して現状を聞いて、市内のことを知りたい、それを今後これからの市のまちづくりに生かしていく。政策に出来るか模索しながら、まずは現状を知る。

こうしてほしいというのを一方的に聞くのではなく、テーマに沿って皆さんからいろんな取り組み、子育てで考えていただいている話を聞かせていただきたい。

(参加者)

子どもたちに聞きたいことがあれば。子どもたちも言いたいことがあれば。花坂の話したいことは？

(子ども)

楽しい。お買い物で算数の勉強になる。

(代表者)

1人300円ずつ持ってきて各自買いものをします。

(市長)

それは勉強になるね。

(参加者)

1人300円は2—3人集まって何を食べたいか相談します。

(市長)

チームプレイ、いいね。

(子ども)

揚げ物、得意！

(参加者)

お肉料理もできるように

(子ども)

将来、役に立つ！

(保護者)

唐揚げが得意。家で作ってふるまってくれるレベル。ご飯を親の分まで用意してくれ、たくましい。

(市長)

何年生？

(子ども)

5年生。

(参加者)

食事づくりで、たくましくなっている。

(市長)

皆がつくる？

(参加者)

食事作る日は皆で作る。同じものではなく、2-3人でグループを作ることが多い。何が食べたいか、誰と作るのか、お金も含めて、決めることがたくさんある。食事づくりの時を市長にみてもらいたい。大人は弁当を300円出すと作ってくれます。

(参加者)

コメ、調味料は共同で買ってある。

(保護者)

子どもが昨年夏から学校に行けず、ここへ。体の調子が悪く寝ていて見ていた。子どもたちが鍋でご飯を炊く、子ども同士でやっているのを見て、びっくり。子どもも料理を作るようになって元気を取り戻して家族にもふるまうようになった。兄弟は学校に行っていて、「いいな、遊んで」と言うが、学べることがある。一人では来られず、付き添って来ていた。自分たちで考えて企画、高学年の姿を見て下の子どもたちもやってみたいとなる。

家では包丁の持ち方など口を出してしまうが、ここでは自由で、おおらかな気持ちで見えることを学んでいる。学校でも学べるが、これも一つの方法。

(市長)

学校のこと、家庭で学ぶこと、友達と学ぶことがある。なんでも学びに通じる。大事なものは自発的にやりたいことを見つけること。

(保護者)

5年生の息子は、修学旅行としていきたい場所も決めて経路も決めた。言ってきた子どもたちは自信がすごい。大人になってからでもドキドキすること。子どもの自信がつくのがいい。料理を作るようになって自信もついた。不安症で2年生から不登校。(今は親が)ちょっと寂しいくらい、生き生きしている。所属の小学校では校長先生、担任の先生との関係性もある。机も置いてあって、いつでもきていいと待ってくれている。安心して通えている。周りに学校に行けていない子が結構いる。(こういう場を)必要としている子は多い。

(市長)

子ども同士の学びの場ですね。人数は？

(参加者)

1日15人。新しい拠点の定員は、来年度入りたい人は、兄弟もいるので20人になる。あと2~3人は受け入れ可能。

(市長)

年齢は？

(参加者)

小中学生。高学年以上は難しい。本人が学校に行かないといけない気持ちが強くなっていく時期、学校へがんばるといって行けてない。

早い段階で別の道を選べることも重要。来ている子たちは力を付けて、将来は大丈夫。

話を聞くと見学の時心配で中に入ってくられない子もいる。入って一緒に過ごしていれば(大丈夫だが)、受け入れられるか、初めは抵抗がある。送迎が難しく入れない、家で過ごす子が多い。市全域にいる。全国、社会問題。

(市長)

全国的に学校に行けない子が増えてきている。コロナ禍も大きな原因の一つ。休校になる、誰も予想できない。マスクしながら話もできない、給食も黙々と一人で食べた時期。

家か学校かだけでなく、子どもたちが学べる環境はいろいろあっていい。家から出られない、家から出られるが学校には行けない、学校の中には行けるが教室に行けないなど、いろいろな子がいる。

(学校には)教室に行けない子の教室を設けている、それぞれの段階もあるので寄り添っていく。いろんな環境をつくっていく。いろんなパターンがあるのでいろんな子たちに対応しながら学校に行き学べる環境、その前のステップがあるといい。学ぶ場はたくさんある。昔とは変わってきている。

(保護者)

1年生の初めから公立校を選ばずここに来た子もいる。公立保育園でいろいろあって転園。(住んでいる地区は)中学校まで皆一緒。抵抗があって、ここを選んだ。ここに楽しく通っている。公立はいいが、ちょうどいいと思えない子もいる。ここでの姿からは学校に行けないとは想像できない。学ぶ内容を自分で選ぶ、皆が選んでいけばいい。花咲学園の費用は公立校とあまり変わらないのはありがたいが、申し訳ない。子どもがここで学びたいと選んだ時、親は反対する。フリースクールなど3~4万円、有料は壁が高い、親も躊躇する。選択できる場があって、公的な面でも応援してもらえるとありがたい。

(市長)

資金の援助は難しい、公立ありき。市域が広く、それぞれの地域で園から小中とクラス替えもないのは、いい環境とは思っていない。ガキ大将はずっとガキ大将。せめてクラス替えできる規模が必要。中学ならやりたいスポーツが出来る規模感が必要。適正化はこどもたちの学ぶ環境のため。

集団教育から学ぶことはたくさんある。花咲学園のようなボランティア団体へ

の支援は難しいが、学びの多様性、子どもたち含めて家族が選ぶ、選択肢の一つ。個人的には学校で学ぶことは多くあった。適応できないことはある、子どものころ、田舎にはなかった、無理やりにでも学校に行かされた世代。いろんな経験をすることが大事。

(参加者)

10年間教員で産休後、退職。教員をやってきた中で感動もあり、先輩から学び充実した10年間。大変なこともあった。教材準備、宿題を見る、事務、7時から21時まで苦痛、いい授業、学級にしていけないプレッシャー。6年生担任して病休、学校に生きづらい、「こうでなければならぬ」と自分を責める。子ども、先生の目が気になって、プレッシャー。

日本の学校のはすぐには変えられない。文科省の学習指導要領の改編、時間数の柔軟さ、現場に浸透して、先生たちの余裕、子どものゆとり、学校、保護者、教育委員会の学校への先入観が変わらないと。

花咲学園の取り組みは、こういうのもあり。こういう活動したら子どもはこういう姿になる。モデルにしたら変化のスピードが変わる。学校と良い関係ができていくといい。

(市長)

制度的にうまくいかなかったがやろうとしていた「ゆとり教育」、システムが追いついていなかった。うまくいかなかったから現状になっている。学校の先生は忙しい。働き方改革で教育委員会は先生たちの負担を減らしていく取り組みをやっているが、すぐにはできない。世の中、働き方改革を進めている。学校にすべてを任せるわけではなく、保護者がサポートすることも大事。自分の子どもが学校に通っているとき、先生の目が行き届いてほしい。休み時間にも一緒に遊ぶ、話す。宿題の丸付けは親がやればいい。そういう時間を先生が子供と過ごす時間にしてもらいたい。親が気づかないところを先生に見てもらう。そういうことができるような学校にしてもらいたい。個人的には、先生たちは大変だと思う、親への対応もある、メンタルも大変。

学ぶ環境、子どもたちがより良く育っていくことへの思い、方向は同じだと思っている。

(参加者)

教員、塾、今は花咲学園とやり方は変わってきた。宿題を出さないと基礎学力がつかないと思っていた。基礎学力とは何か、考えが変わってきた。花咲の子どもはご飯をつくる、食べる。生きる力。学校では教えない、親任せ。高学年でも調理実

習が少ない、コロナ禍でなくなった。学校で学べていない。花咲学園で読み書きそろばんはできていないが、生きる力はある。大人になったときに本当に必要な力、考え直さないといけない。いい大学、いいところに就職、考え直さない。何が一番大事な生きる力なのか、自分が大事だと思った常識も変わる。価値観ががら崩れている2年間、先生たちも疑問を問い直すと、きつともっと楽になるのではないか。

学校の先生たちと対話する用意はある。学校が変わっていくその一つになればいい。花咲に来れる子のごくわずか。苦しんでいる子は多い、学校が変わってほしい。

(代表者)

在籍校の校長、教頭、担任の先生も来てくれることもあるが、全然連絡取れないところもある。在籍校の先生には見に来てもらいたい。実際に見てみると感じる所がある。定員15人のうちだけでは無理。合う子も合わない子もいる。みんな考えていけたらいい。

(市長)

子育ては親だと思う。共働き多い、学童保育も多いが、子どもに寄り添っていかなければいけない。子どもとの信頼関係、言いたいことが言える、子どもが話しやすい関係性を作ることが大事。何から何まで学校でとなりがち。先生方の負担になる一つかと。肌感として、昔と今では環境が違って当たり前、当然、これから今とは違う世の中になる。一番寄り添っていくのは親。そこが大事。

(保護者)

在籍校の校長先生がすごく良くしてくださり、子どもを大事にしてくれた。親の理解がないと学校が実践できない。子どもは宝物、どんな子ども幸せになるために生きている。親も地域も学校も皆がいいなと思う環境が当たり前になるといい。瑞浪市は近くにないが、ここに来た後にできた。行き渋りでここを選択する子もいる。親が1人、未成年、住んでいい地域がたくさんあればいい。??

違うところも含めて、公立と同じ位置に並ぶ、子どもが幸せに生きられる、フラットな位置にあるといい。そういう学校がある、他の親に知れ渡っていくといい。

(市長)

いろんな学び、高校も通信教育が増えている。一つの選択肢として、本人の意思、選択肢が増えていくことは悪いことではない。いろんな学びがある。花咲の子どもたち、行き場所、頑張っているのはいいが、続けること。団体、ボランティアで

続けるのはしんどい。大事なのは続ける。金銭面で続けるやり方をしていかないと、心配するところもある。

(参加者)

持続性を考えてこの形なので、大丈夫です。

(市長)

会社もそうだが、続けること。高等部という話もあるのだろうか？

自分で生きる、続ける、企業経営、生活もしていく。赤字では続けられない。いかに続けられるか。

(参加者)

社会に出ていく準備期間、起業知識などを学び、地域で起業できる子を育てたい。不登校支援ではない。教育移住にもなる。資金面の援助は求めている。人数が増え場所が必要。廃校はどこか使えないか。

(市長)

正直、厳しい。市も財政が難しいので財産を上手に使っていくことも大事、活用していく。市長の役目。一つの学校分けて使ってもらうのは難しい。

(代表者)

5月からは新しい場所になりますので、今後もよろしくお願いします。